

家庭教師、予備校、専門学校での先生の経験はかけがえの無い貴重な体験だと思っています。

中学生1年生と小学生3年生のふたりの子ども達の公立学校の教育活動にも貢献できたら良いなと思っていますし、子どもだけでなく周囲の人々が学ぶ力を発揮できるようにすることが自分の使命であると感じています。関東同窓会には元気な先輩方がたくさんいらっやあって、みんなで一緒に故郷のことを思っています。難聴の息子の名前は「禮以」と言います。「郷は禮讓和みなむ」の禮です。

聴覚障害児支援のための  
チャリティコンサート  
東大先端研  
「バリアフリー分野」  
2016年夏



## 渡米して経営学を学び 翻訳・通訳・留学サポート と活躍中～



こうしょう  
**幸正 智也** 高59 羽咋・千路

羽咋高校2007年卒業の幸正です。月日が経つのはとても早いもので、もう卒業から10年かとしみじみ感じています。

私は高校卒業後、アメリカ・アーカンソーに渡り4年間経営学を専攻し日本に帰ってきました。最初の就職先は都内のシステム会社で、そこで3年間外資企業向けにシステム営業として働き、その後はフリーで翻訳、通訳、留学サポートの仕事を行っています。

先日はスペインのラファナダル テニスアカデミーの山梨キャンプに同行し、コーチの通訳をさせていただきました。近年ますます海外からの観光客、留学生が増えていく中で、活躍の場をこれからも探してゆければ、と考えています。

現在は鎌倉のシェアハウスに住んでいますので、遊びに来る機会があれば是非お声かけ下さい。最近なかなか時間を見つけられず羽咋への帰省が出来て

おりませんが、年末までには一度顔を出したいと思っています。

末筆ながら、羽咋高校ならびに同窓会のますますの発展を願っております。



## 還暦 “千の風になって”

おしま (旧姓 浜下)  
**生島 美和子** 高27 羽咋・一の宮

最近60歳になりました。私の頭の中には消しゴムがあって、昔のことも今のことも空白です。今のことは、頭が回転し始めると、思い出します。ある友から「痴呆はイヤなことを全て忘れて死ぬんだ」と聞きました。周りに迷惑をかけずに、イヤなことを忘れられたらと思います。

しかし、ふと思い返すと、イヤなことを悩みながら頑張った時に、人として成長してきたような気がします。死んだら何にもなくなるというのでは、チョット寂しすぎるので、永遠の生命があって愛が残るという方が、楽しいし良い生き方ができると思うので、そのように信じています。

また、死んでお墓に入るという考え方は好きではないので、骨はお墓に入っても、想いは“千の風になって”自由に世界を巡りたいと思っています。

私のお墓の前で泣かないでください そこには私はいません眠って  
なんかないません 千の風に 千の風になって  
あの大きな空を吹き渡っています 秋には光になって如に降り注ぐ  
冬にはダイヤのように煌めく雪になる千の風に 千の風になって  
あの大きな空を吹き渡っています 作詞：新井 満 (訳詞)



## 恵まれた環境で研究 教育に携われる幸運～

(旧姓 近岡)  
**川村 洋子** 高39 宝達志水・子浦

私は現在東京大学アイソトープ総合センターで特任研究員をしています。東大は、機会、人材、情報そして経済あらゆるリソースにおいて恵まれた環境にありこのような環境で研究と教育にたずさわれることは、本当に幸運だと思います。東大を志望される在校生の皆さん、是非全力で頑張ってください。

現時点で力が及ばなくても、がっかりすることはありません。私も、大学は金沢大学理学部化学科です。博士号は、北海道大学で取得しましたが、通常3年間のところ6年かかりました。日本の博士課程の在籍者の約10%は東大です。博士課程の入試は、英語とそれまでの研究のプレゼンテーションのみです。

経済的に困難があっても、あきらめる必要はありません。学部から博士課程まで9年間、授業料免除と奨学金を受けていました。土日もバイトをしてました。 へ

## ビックリポンの同窓会

杉本 喜久男 (高16)

羽昨・神子原



地元の本部同窓会にも数回しか参加していないのはあるが、今回、同年の本多群司君とハンドボールの後輩の赤池清君(高20)からは是非にと強い要請があり、新幹線で東京まで行ったことがなかったこともあり出かけることにした。金沢からは、同じように誘われた山口富士子(水本)さん(高20)・ハンドボールの後輩)と同行であった。

霞が関ビル 35階の東海大学校友会館で関東同窓会総会終了から参加したのであるが、会場は歌手の新川二朗先輩(高10)の「歌手生活55年 私の半生を語る」。歌も交えた軽妙な話に新曲の発表、同級生の土田米蔵さんからの花束贈呈などの趣向もあった。また同郷で同窓生以外の参加もあり、160余人もの参加者で驚かされた。県人会や東京穴水会、関東志賀町会、ふる里柳田会、羽昨工業高校同窓会、七尾高校同窓会、飯田高校同窓会の役員等 20余名の参加もあった。本部同窓会では、他校や他市町の参加は考えられないものの、参加者は関東の半分位ではなからうか。

懇親会は、(中)17回、女15回、高63回まで)と幅広く、我が16回生も本多君の他、渡邊みね子(宝達)、北口松雄、都築

和枝(渡辺)、宝田良正、鈴木弘子(下次)、小川道雄(木村)、三浦久子(松井)の各氏に、東海支部副会長の三井和彦氏の10名のテーブルで卒業後50年の話題に花を咲かせたひと時であった。来賓の方々の挨拶で始まり、記念撮影、豪華大抽選会(寄贈品や自作品提供など全員に当たる)、校歌・応援歌斉唱等、時間を忘れたひと時であった。

私のように生まれた羽昨から出たことのない者にとつては、故郷と呼ぶところもなく、毎日のように同窓生と顔を合わせている者と違い、遠く離れた土地で生活されている方々にとつては、同郷・同窓と云うのは、精神的にも大きな比重を占めているのだろうと感じさせられました。

二次会は、30数名で新橋のカラオケ店二室でも盛り上がり、本多君、三井君は他の会場へと別れ、この後は平沼弘君(高19)、赤池、上野精四(高20)両君のリードで、猿田(河崎)京子(高19)、吉田実(高20)、関西支部)、山本泰夫(高20)、羽昨市観光協会)、瀬戸公英(高20)・本部副会長)、山口富士子他数名と丑三つ時までお付き合いを頂いた。

翌日も赤池君には観光に付き合ってもらい、上野君には浅草の行列のできる老舗店で昼食をご馳走になったが、それぞれに忙しい中、平沼君、吉田君、瀬戸君、山口さんも参加してくれ感謝・感謝・感謝、恐縮の二日間を過ごした。

最後に同級生の本多君が関東同窓会新会長に選任されたよし、皆で盛り立ててやってく、こい。

## 卒業30周年記念同窓会

大森 久子 (高38)

羽昨・川原

高校生の頃は、大人になりたいと思っていなかった。なんて、考えていたことをすっかり忘れていたある日、「羽昨高校第38回卒業30周年記念同窓会」の案内が届いた。学生時代は時々帰省の際に遊んだが、仕事を始めてから、20年以上高校の同級生たちとはほとんど会うことはなかった。

8月13日の昼下がり、集合には少し早いと思つて到着した和倉温泉「あえ



和倉温泉「あえの風」に第38回生が100名超え大集合した

の風」のロビー 卒業アルバム個人の写真が名札として並んでいて、とても気持ちよかしい。案内された客室には既に同級生が到着している。温泉に入るとも忘れて、息つく暇もなく喋る。

そうこうしているうちに、あつという間に懇親会の時間となる。約100名の同級生が大広間に集結しているが、顔を見ると反射的に名前が出たり、出なかつたり。しかし脳の奥から記憶が少しずつ解けて来る、という感覚が分かる。そして飲み食いするのを忘れるほどまた喋る。会の途中では、クイズ大会やじゃんけん大会があつたような気がするが、なんといっても秀逸は、出席していたいただいた恩師の一人、英語の中井先生が、当時34日のホーム日誌をお持ちになり、一部朗読。すっかり30年前にタイムスリップしてしまい、涙は出なかつたが思わず泣けてきた。

時間の感覚がすっかりなくなつたところで一次会はお開きに、となる前にお約束の校歌タイム。「お、みんな、ちゃんと覚えとる！」と感動するくらい1題目は斉唱できたが、2題目、3題目は歌詞カードを見ながらなんとか歌う。そのノリをそのまんま引き摺って、二次会のカラオケ大会へ。こうして和倉の夜は更けて行き、いつの間にか夜が明けていた。

大人になつてよかつた、と思つた一日だった。

幹事のみなさん、そして同級生のみなさん、どうもありがとうございます。また遊びましょう！